

島に残る文化・芸能を、次の世代へ継承するために ～

佐渡の多様な文化や歴史は、人々の日常の営みの中で育まれてきました。この豊かで貴重な財産を、次の世代へ残していくために活動している佐渡文化財団は設立から間もなく5年目を迎えます。

当財団は、佐渡の豊かな文化を守り、未来へ引き継ぐとともに、文化資源の活用を通じ、生き活きとした地域住民の暮らしの実現に寄与することを目的としています。この目的を達成するため、「伝統文化の継承活動の奨励及び支援」や「文化行事の開催その他市民が文化に触れる機会の充実に関する事業」などを展開しています。

令和3年度の主な活動を紹介します。

- ・ 設立年月日：2018（平成30）年7月2日
- ・ 事務所：佐渡市役所畑野行政サービスセンター内佐渡市畑野甲533番地
- ・ 組織：評議員6名、理事5名、監事2名、職員3名
- ・ 令和3年度実績：定時評議員会1回開催、臨時評議員会1回開催
 定時理事会3回開催、臨時理事会5回開催

（2022年3月31日現在）

文化団体、芸能保存会の実態調査と上演の場の創出

佐渡には、文化や芸能を継承している団体・保存会が数多くあります。今年度は島内の人形座の調査を行いました。また、コロナ禍、上演の場も失われていることから7月に「佐渡人形芝居上演会」を開催し、島内の人形座の他、真野中学校の生徒も出演しました。

佐渡人形芝居保存会の山本修巳副会長は、「久々の人形芝居上演会で懐かしくもあり、また興奮している。各座の洗練された芝居が人々の心に印象的に残ったと思う。」と講評をいただきました。



▲人形座の調査

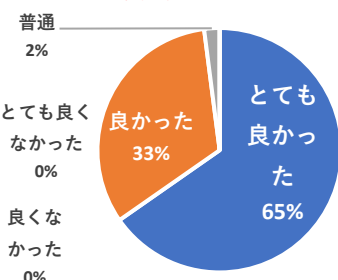


▲真明座の「三番叟」

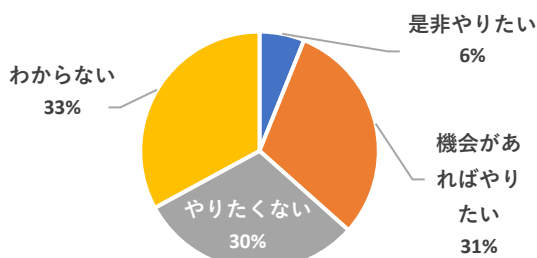


▲真野中生徒、芝居披露

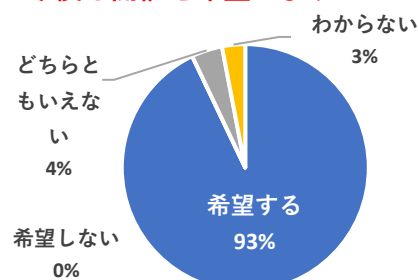
上演会はどうでしたか？



人形芝居をやりたい？



今後も開催を希望しますか？



また、常に佐渡の芸能が鑑賞できる場の常設化に向け、11月に「佐渡文化・芸能シリーズ」を開催しました。今回は「文弥節」と「佐渡民話」を聴くことをテーマに、オンラインでも開催しました。

今後も佐渡の文化・芸能のファンが増えるように、関係者とアイデアを出し合っていきたいと思います。



令和3年度の実績(令和4年3月末現在)

- ・佐渡の人形芝居団体（人形座）調査 第1次 6～7月 第2次 1月～2月
- ・「佐渡人形芝居上演会」開催 日時：7月18日 会場：佐渡島開発総合センター 3F大集会室
出演団体 8団体 入場者109名
- ・「佐渡文化・芸能シリーズ」開催 日時：11月21日 会場：金井能楽堂
出演者 常盤座 久保宗香、真明座 平野宗晴、笠井淳子（民話）入場者40名（オンライン含む）

子どもや市民が、文化に触れる機会を提供

当財団では、子どもたちや市民に佐渡の文化・芸能等に触れる機会を提供したいと、講師の派遣や和楽器等の貸出を行っています。

河原田小学校4年生の総合的な学習の時間では、1学期の「佐渡の芸能・鬼太鼓について」、2学期の「工芸」について、それぞれ当財団職員が講師となって授業を行いました。

1月に畑野中学校で行われた「佐渡おけさ」の授業には、地元の民謡団体「佐渡みどり会」の会員を講師として派遣し、1・2年生の指導にあたりました。

また、学校授業のほか、佐渡博物館や新潟三越伊勢丹のイベントなどで「わら細工」のワークショップを開いたり、小倉地区などで茅刈講習・ワークショップを行いました。



▲小学校でのわら細工体験



▲中学校での民謡授業



▲茅刈り講習ワークショップ

令和3年度の実績(令和4年3月末現在)

- ・学校等への講師派遣数：14件
- ・学校等への和楽器貸出数 延べ119台
- ・わら細工ワークショップ等：7件、茅刈り講習ワークショップ：2件（参加者17名）

情報発信など、佐渡の文化・芸能を盛り上げる取組

コロナ禍、人口減少など生活スタイルの変化と共に佐渡の文化・芸能の在り方も変わってきています。そんな中、今の佐渡を把握し情報発信しながら課題を整理し次の世代へしっかりと継承していく必要があります。当財団では、これまで取り組んできた事業を推進し、島の活性化につながる事業にも取り組んでいきます。



▲ Twitterの開設



▲ GIAHS10周年フォーラムへの参加



▲新たに始めた就労支援事業

令和3年度の実績(令和4年3月末現在)

- ・ホームページ、SNS (Facebook、YouTube、Instagram) の更新強化
- ・新たにTwitterの開設
- ・ふるさと納税、ポータルサイト「さどおしな」の活用
- ・順徳上皇800年記念事業実行委員会、GIAHS10周年フォーラム実行委員会などへの参加
- ・賛助会員の導入
- ・就労支援事業の充実に向け、関係者と連携した事業の実施

佐渡の文化は世界からも注目

佐渡と石川県の文弥節を研究しているドイツ・トリーア大学の大学院生であるフルナリさんが、オンラインを通して佐渡の太夫との交流を行いました。

日本学を専攻しているフルナリさんは、現役の太夫から実際に強い唄声と三味線の音色をオンラインを通して聞いてとても感動していました。フルナリさんは、この日聞き取った内容をまとめ、学会などで発表するそうです。このように佐渡の文化は世界からも注目されています。



島の文化を体感できるアイテムを販売

佐渡には、日々の暮らしの中で活用されてきた民芸品やおけさ笠などの芸能の道具が残っています。これらの民芸品等に関する商品を当財団では窓口や通信販売で扱っています。

また、伝統芸能をまとめた芸能BOOKや佐渡の手仕事と技術伝承者を紹介した冊子なども扱っています。興味・関心がある方は、ぜひ、お求めください。

取り扱っている主な商品

- | | |
|------------------|------------|
| ・佐渡の手仕事(冊子) | ・縄織いリース |
| ・佐渡島伝統芸能BOOK(冊子) | ・鍋しき(わら細工) |
| ・おけさ笠 | ・七五三縄 |
| ・縄織いキット | ・ぬりえ紙芝居 |



■佐渡市文化振興ビジョン検討懇談会

佐渡市教育委員会では、「文化芸術基本法」に基づく地方文化芸術推進基本計画として「佐渡市文化振興ビジョン」の策定に向け、検討懇談会を開催しています。

懇談会では、ビジョンの中に盛り込むべく佐渡の文化を取り巻く状況や国や県などの動向を踏まえた基本方針、そして、重点的な取組などについて委員が検討を重ねてきました。

この素案に関するパブリックコメントも実施し、市民の皆様のご意見を反映したビジョンを策定していきます。



▲検討懇談会の様子

保存会のための春まつり感染症等対策研修を開催

3月29日(火)、金井コミュニティセンターで「保存会のための春まつり感染症等対策研修」を開催しました。

これは、春まつりを前に、コロナ禍でなかなか鬼太鼓等の実施について判断がむずかしい状況が続く中、感染症対策など工夫しながら取組んでいる保存会の事例を共有して、1つでも多くの保存会がまつりの実施に向けて動き出していただくことを目的として開催したものです。

この日は、畑野地区の「河内若手」、両津地区の「春日鬼組」、新穂地区の「青木青年会」の3団体に稽古で工夫している感染症対策やまつりの門付けでアンケートなど集落の意向を聞きながら実施した事例などを紹介していただきました。

最後に行われた意見交換では、「他の保存会の取組が聞けて、とても参考になった。」、「飲食の取り扱い方が悩ましい。」、「当事者である保存会で対策をとっても、周囲の目や厳しい意見が寄せられることがある。」など様々な意見がありました。

その中で、「佐渡のまつりは、地域の活性化やつながり、結束を強くしてきたものである。まつりの実施の検討において、関係者がバラバラになるのではなく、どのような判断や動きができるかを話し合える場や関係性を大事にする方がとても重要だと思う。」という意見に会場の参加者も納得していました。

このような研修等を佐渡文化財団では、今後も企画・計画していきたいと思ひます。



鬼太鼓の実施状況(R4.3.29現在)

	2020	2021	2022
通常実施	5	12	5
縮小	24	27	16
中止	76	30	1

※財団で確認済の件数

佐渡の文化・芸能を支援する、賛助会員を募集しています!!



佐渡文化財団では、研究・調査、文化・芸能の普及活動等をご支援いただける賛助会員を募集しています。賛助会員には特典として、ニュースレターの送付をはじめ、メール等での情報提供や特製2022カレンダーを贈呈いたします。会費は個人1口2,000円、団体・法人1口5,000円です。

何口でも、お申し込みいただけます。

ご賛同いただける方のご支援をお願いいたします。

